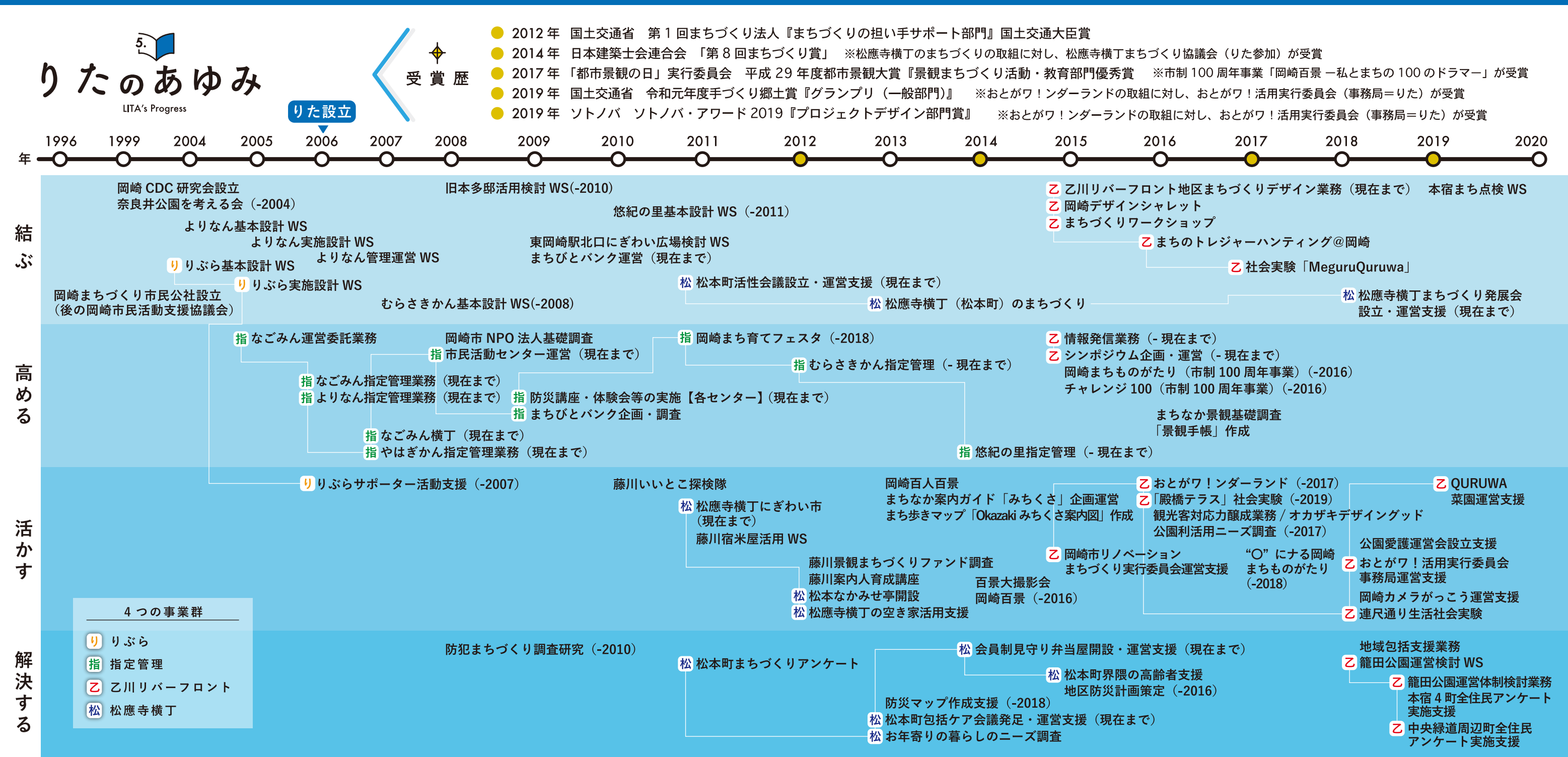




りたの前身は住民参加型まちづくりを目指した OCDC 研(※1)と、市民自治を目指した市民公社(※2)の2つの組織です。岡崎市市民協働推進課が「民間主導の中間支援組織の組成」と「市民活動拠点としての地域交流センターの整備」を掲げたことによって NPO 設立が検討され、実務を担う OCDC 研と合流して機能強化をした市民公社が「岡崎市民活動支援協議会(以下、市民活動支援協議会)」へ改組して「なごみん」の管理運営を受託。その後、岡崎青年会議所の協力も得て、2006 年に同協議会を改組して NPO 法人「岡崎まち育てセンター・りた」は誕生しました。

設立後は、「りぶら」などの公共施設の計画への市民参加コーディネート業務の他、なごみに続いて「よりなん」「市民活動センター」などの岡崎市の市民活動拠点である 6 施設の管理運営業務を請け負うなど、徐々に業務とスタッフが増えてきました。当初 8 人のスタッフも現在は 60 人以上となり、乙川リバーフロント地区関連の業務や、市制 100 周年記念関連の業務など岡崎市を挙げて取り組む事業のほか、松本町や藤川町をはじめとした市内各地のまちづくり支援など、市民協働事業を幅広く手がけています。また近年は専任の理事長、事務局長を配置し、体制の再構築、スタッフ研修など、大所帯となった組織の基盤強化にも更に力を注いでいます。

14 年の歴史を振り返ると、りたに期待される役割が変化していることがうかがえます。当初は行政が市民の声を取り入れるための WS の企画運営(=結ぶ)や、公共の拠点施設の市民目線での管理運営(=高める)などが中心でしたが、最近では、公共空間を活用するための市民主体の体制構築(=活かす)や、地域課題を解決するための住民主体の体制構築(=解決する)と、その役割は広がり、深まっています。これはりたが蓄えてきた、ボランティア、市民活動団体、NPO、事業者とのつながりが、まち育てを推進する大きな力であること、また「市民がまちに関わるまちづくり」の考えが徐々に浸透していることの証しといえます。りたは、これからも中間支援組織として、市民が主体的に関わる”まち育て”を進めていきます。

※1：OCDC 研：住民参加型まちづくりの研究・実践を共通点に、岡崎出身の 2 人の大学生(現事務局の三矢、天野)が偶然出会い、意気投合したことで始まった自主グループ。積極的に地元有志や岡崎市職員に働きかけながら、まちづくり講演会の実施、市民参加の「奈良井公園を考える会」の運営などを行い、活動の足掛かりを築きました。

※2：市民公社(正式名称・岡崎まちづくり市民公社)：「市民自治の実現」を旗印に、岡崎市内の総代会連絡協議会、学区社会教育委員長連絡協議会、学区福祉委員会、社会福祉協議会、青年会議所といった岡崎市を代表する地縁団体や福祉団体など約 50 の地域活動団体が結集。市民活動団体向けの講座や交流会などを開催し、岡崎市の市民活動の促進に寄与していました。